

第3 障害者スポーツ文化センターラポール運営事業

横浜ラポール及びラポール上大岡は、市内唯一の障害児・者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、障害児・者の多様化するニーズに即した事業を行いました。事業の実施にあたっては、多様なプログラムの展開、地域資源との連携を強化した取組、障害者のスポーツ・文化活動に関する積極的な情報の発信に努めました。重点をおいた項目は、次の3項目です。

- ◇ スポーツ施設での機器の工夫と、スポーツ・文化事業では重度障害の方も参加できるプログラムを実施しました。また、非常勤職員や委託業者を含めたスタッフ全員を対象に「接遇」「障害理解」を取り入れた職員研修を実施する等、来館者が安心して利用いただけるようサービスの向上に取り組みました。
- ◇ 個人利用者や学校等の団体が利用に関する情報を得やすくするため利用案内等のリーフレット類を刷新するとともに、相談しやすい環境を整えました。また、障害福祉事業所や特別支援学校等集団の利用時には、ラポールの指導員等スタッフが安全に楽しんで利用していただけるよう個別の状況に応じた丁寧なコーディネートを行いました。
- ◇ スポーツ指導員による障害福祉事業所への出張支援や、事業所ではできないプログラム等をラポールで体験していただく等の支援を拡充しました。情報発信については、SNS やホームページでの事業関連情報の発信を充実させたほか、言葉を文字変換するシステムの窓口での活用や災害時に館内で緊急情報を発信するシステムの導入等様々な障害のある方に情報が伝わるような取り組みを実施しました。

(実績)

※()内は昨年度

施設名	開館日数	施設利用者数
横浜ラポール	346日 (345日)	298,616人 (247,550人)
ラポール上大岡	307日 (306日)	27,651人 (23,655人)

1 スポーツ振興

- ◇ 初級パラスポーツ指導員養成講座の開催回数をこれまでの年1回から2回へ増やし、より多くの指導者を育成しました。また、横浜ラポールが開催している教室・イベントを使って、指導者が実践的な学びを得る機会づくりを行いました。
- ◇ 継続的な支援体制及び重度障害者への対応力を強化すべく、一部教室の1期あたりの実施回数を増やし、評価項目・指導計画の見直しを行いました。また、利用者満足度の向上を目指した新たな取組として、体力測定・健康づくり相談を実施し、データに基づいた現状把握と課題の見える化から支援プログラムの紹介まで、ワンストップで提供できる環境づくりを行いました。
- ◇ 新たに57箇所の障害福祉事業所や特別支援学校等に対して、対象施設のニーズや通所者の障害特性、実施環境に応じたプログラムの作成・指導やラポールの円滑な利用を促すための助言・環境整備を行いました。

(実績)

※()内は昨年度

スポーツ大会・交流イベント	参加者	1,452人	(919人)
リハビリテーション・スポーツ教室、相談等	参加者	3,831人	(3,064人)
スポーツ・レクリエーション教室	参加者	5,479人	(7,092人)
障害者スポーツ指導員・ボラ研修等	参加者	534人	(581人)
地域での支援事業（ラポール上大岡含む）	参加者	2,075人	(2,062人)

2 文化振興

- ◇ 文化庁助成事業を活用して、普段触れることの少ない伝統的な和楽器による邦楽の体験会を実施しました。また、プロアーティストと一緒に実施するワークショップ等を実施し、趣味を見つけられるようなプログラムづくりに取り組みました。
- ◇ できるだけ自分で活動が可能となるよう、物品の工夫や重度障害及び難病の方が安全に鑑賞できる環境づくりの構築に努めました。また、協力団体と共に重度障害や難病の方が楽しめるおもちゃを使ったイベントを実施しました。
- ◇ ラポール美術展のワークショップやイベントで障害当事者を講師としたプログラムを実施しました。また、横浜ラポールのロビー等を使い、障害者アーティストの個展を開催し、発表の場の拡大に努めました。

(実績)

※()内は昨年度

	件数	参加者数
講座・行事	61件 (56件)	12,194人 (8,071人)

3 聴覚障害者情報提供施設

- ◇ 手話通訳研修は、計 28 回のうち 8 回をオンラインで実施しました。要約筆記者研修は、実技研修を中心にすべて対面で実施しました。検討中の音声認識技術の導入については、通訳者の他、市内の聴覚障害者団体にも呼びかけ、専門家による研修会をオンラインで開催し、活用状況や課題等について共有しました。
- ◇ 介護保険事業所や民生委員児童委員協議会に向けて「聴覚障害者理解のための出前講座」を実施し、高齢難聴者への対応等依頼先のニーズに沿った内容で講師を派遣しました。情報発信については、毎週火曜日、聴覚障害に関わる内容を、SNS を利用してテキストと手話動画で発信した他、横浜市聴覚障害者協会の協力により、聴覚障害者のキャスターによる横浜ラポールの紹介動画を作成し、施設や事業の周知に取り組みました。
- ◇ 「聞こえの相談」事業について、18 区役所、地域ケアプラザ等での案内チラシ配布の他、「広報よこはま」や地域誌への記事掲載により事業広報に努め、相談に対応しました。また、相談利用者同士の交流を目的とした「聞こえの相談 交流サロン」を開催しました。

(実績)

※()内は昨年度

手話・筆記通訳派遣	延べ 13,025 人	(延べ 12,637 人)
聴覚障害者相談	延べ 1,423 件	(延べ 1,607 件)

4 ラポール上大岡

- ◇ 各区スポーツ推進委員や市スポーツ協会の加盟競技団体指導員を対象としたパラスポーツ指導者研修会を開催した他、横浜市パラスポーツ指導者協議会の指導者を対象としたスキルアップ研修・交流会を定例開催しました。また、ラポール上大岡で開催するプログラムを活用したパラスポーツ指導者や学生ボランティアの実践的な研修の場づくりに取り組みました。
- ◇ スポーツ部門では、区自立支援協議会や就労支援連絡会等と連携し、障害福祉事業所間のスポーツ交流会の企画・運営に取り組みました。また、地域ケアプラザが主催する教室において、近隣の障害福祉事業所が参加できるよう支援しました。文化部門では、商業施設等多くの方に見ていただける場所を開拓して協力を得ながら、障害者の作品展を積極的に展開しました。
- ◇ 市スポーツ協会の情報サイト“ハマスポ”で、横浜のパラスポーツ情報コラム「ハマパラ便り」を発信しました。また、これからスポーツを初めてみようと思う方を対象とした障害者スポーツ啓発ビデオ「リハビリテーション・スポーツ肢体不自由編」を制作しました。

(実績)

※()内は昨年度

地域支援（横浜ラポール含む）	参加者	2,075人	(2,062人)
主催プログラム	参加者	19,214人	(15,921人)
共創パートナー事業	参加者	4,867人	(4,209人)